

生涯学習施設と地域をつなぐために(II) :
静岡市北部生涯学習センター美和分館・児童生徒調
査を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-05-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿部, 耕也, 小澤, 拓真 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008410

論文

生涯学習施設と地域をつなぐために（Ⅱ）

——静岡市北部生涯学習センター美和分館・児童生徒調査を中心に——

阿部 耕也*、小澤 拓真**

1. 問題設定

本稿の目的は、前稿⁽¹⁾に引き続き、平成25年度に静岡市北部生涯学習センター美和分館によって企画・実施された「アカデ美和と地域をつなぐアンケート」において収集されたデータをもとに、地域住民による生涯学習施設の利用実態・興味関心等について、特に児童・生徒に注目しながら検討することにある。

前稿で述べたように、静岡市北部生涯学習センター美和分館が設置されているアカデ美和は、地域住民の要望に応えるため、平成21年9月の開館以来、生涯学習・社会教育事業を実施してきたが、これまでの事業の企画は職員が利用者に接するなかで得た知識・経験・ニーズに基づいており、施設利用者以外のニーズの把握が出来ていないこと、統計的なデータとしてのニーズが把握しきれていなかったことなど、いくつかの反省点がある。また、利用者の平均年齢が高く、サークル存続等のため新規利用者の獲得が課題となっている。そこで、平成26年に5周年を迎えるにあたり、施設利用者だけでなく、幅広い年代層の地域住民へ社会教育学習及び生涯学習教育に関する意識調査を行い、上記に述べた課題の解決策を見出すため、地域住民向けのアンケート調査を企画・実施することとした。

アンケート調査の企画にあたっては、平成20年度に静岡市葵生涯学習センターで実施された調査⁽²⁾が参考となり、同調査の企画・分析に協力した静岡大学へ協力要請があった。担当した静岡大学イノベーション社会連携推進機構・地域連携生涯学習部門の協力のもと、調査票が作成された後、美和分館によって配布・回収・データ入力が行われた。データ集計・分析にあたっては、静岡大学「地域課題解決支援プロジェクト⁽³⁾」の一環として協力し、調査を両者による共同作業として実施することとした。

2. 調査の概要

本調査の概要は以下の通りである。

(1) 調査の内容

<地域住民向け>

基本属性

[年代・性別・職業・家族構成・居住学区]

調査項目

アカデ美和について [利用歴、利用目的及び未利用の理由、生涯学習センターへの満足度]

アカデ美和以外の利用歴

生涯学習センターへのイメージ

興味のある学習分野について

参加可能時間帯について

* 静岡大学イノベーション社会連携推進機構教授

** 北部生涯学習センター美和分館 アカデ美和 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団

求める広報ツールについて
生涯学習センターが力を入れるべきことについて

<児童・生徒向け>

基本属性

[学年・性別・家族構成・居住学区]

調査項目

アカデ美和について [利用歴、利用目的及び未利用の理由]

アカデ美和以外の利用歴

興味関心について

生涯学習センターの事業の認知度について

(2) 調査設計

<地域住民向け>

- ・調査地域 安倍口・美和・足久保・松野学区
- ・調査対象 安倍口・美和・足久保・松野学区住民
- ・標本数 5,316戸（全戸調査）
- ・調査期間 平成25年9月1日～30日
- ・調査方法 安倍口・美和・足久保・松野学区自治会連合会会長を通じて、各町内・自治会会長へ配布及び回収を依頼

<児童・生徒向け>

- ・調査地域 安倍口・美和・足久保・松野学区
- ・調査対象 調査地域内に所在する小中学校に通う小学4年生以上の児童・生徒
- ・標本数 641人（全数調査）
- ・調査期間 平成25年9月1日～30日
- ・調査方法 調査地域内各小中学校へ配布及び回収を依頼

表1 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
近隣住民	5,316	1,815	34.1%
児童・生徒	641	583	90.9%

3. 児童生徒調査の結果

昨年度実施したアンケート調査は、地域住民向け・児童生徒向けの2種類である（調査票と結果概要は章末に添付）。本稿では児童生徒向けアンケートの考察を主に行う。

(1) 回答者の属性

回答者の属性は以下のとおりである。

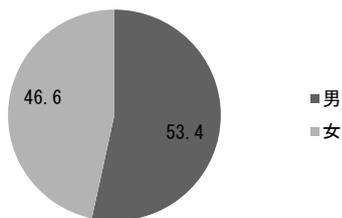


図1 回答者の性別

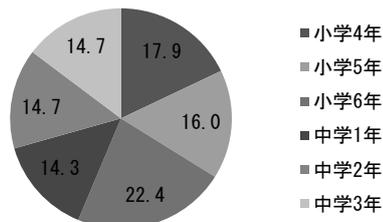


図2 回答者の学年

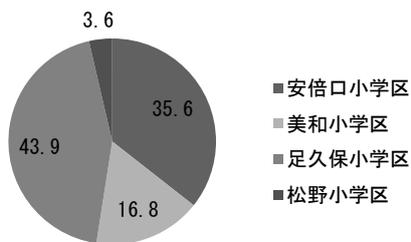
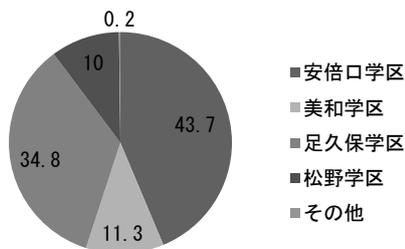


図3 回答者の居住学区(児童生徒)



参考図1 回答者の居住学区(地域住民)

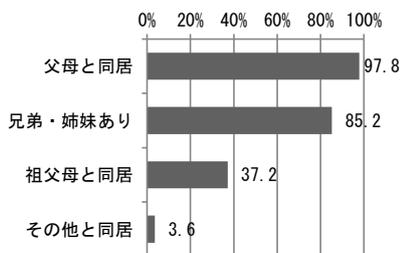


図4 回答者の同居家族

性別では、男性が5割強、女性が4割強で、男性が7ポイントほど多い。学年別では6年生が20%強を占め最も多く、次いで4年生が17.9%、5年生が16.0%、中学各学年が14%程度と続く。居住学区は、足久保学区が43.9%と最も多く、安倍口学区35.6%、美和学区16.8%、松野学区3.6%と続き、地域住民向けアンケートと比較し、安倍口(43.7%)・足久保学区(34.8%)の回答比率が大きく変化している。同居家族では、父母と同居が97.8%と最も多く、兄弟・姉妹がいるとの回答が85.2%、祖父母との同居が37.2%と続く。

(2) 調査項目

<アカデ美和の利用経験>

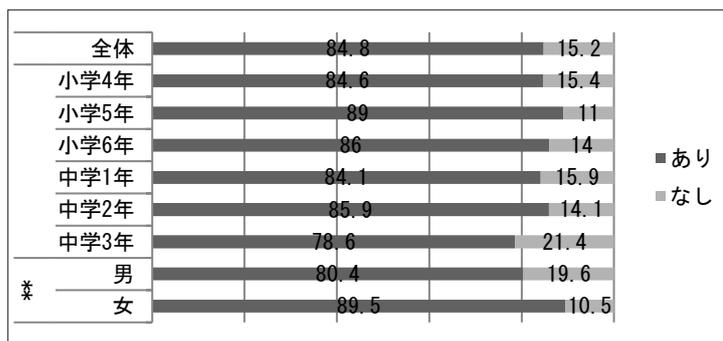


図5 アカデ美和の利用体験

アカデ美和の利用経験について尋ねたところ、全体では「あり」との回答が84.8%となっている。学年別では大きな差は見られないが、性別では統計的な有意差（*** 0.1%水準で有意 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意）がみられ、男子児童より女子児童の方が9ポイント程多く利用している。いずれにしても多くの児童生徒に利用されていることが分かる。男性より、女性の方で「利用経験がある」という回答が多いという傾向は、地域住民向けアンケートの結果と同様である。

<アカデ美和の利用目的>

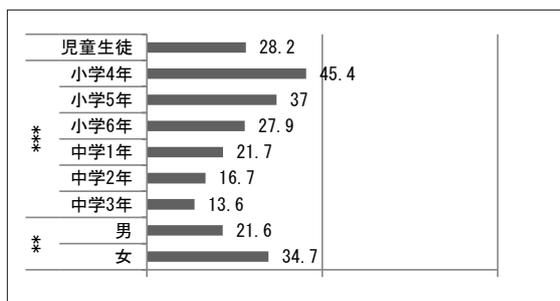


図6 利用目的 (主催事業への参加)

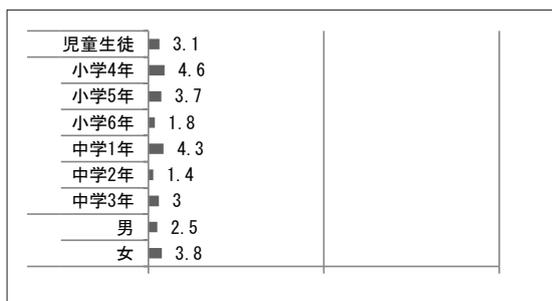


図7 利用目的 (団体(サークル)での利用)

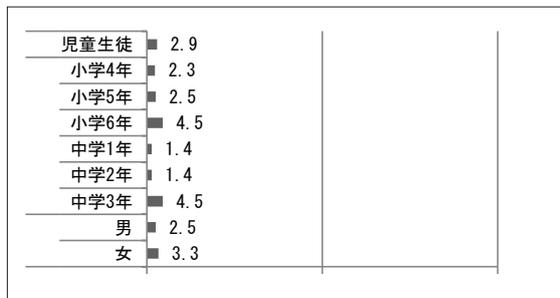


図8 利用目的 (地域活動への参加)

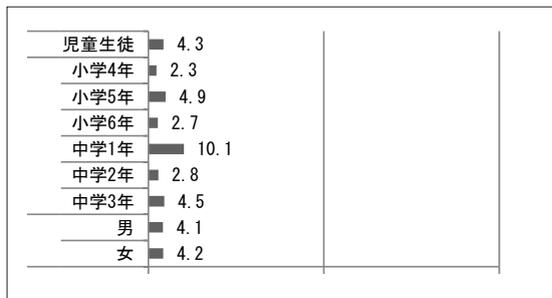


図9 利用目的 (会議・打合せ)

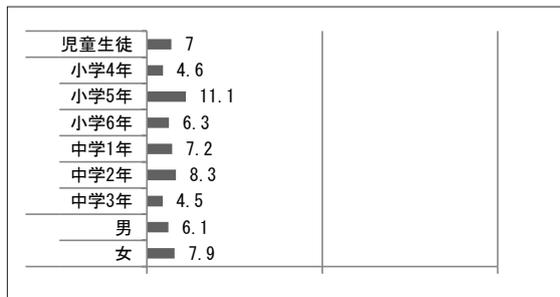


図10 利用目的 (展示鑑賞)

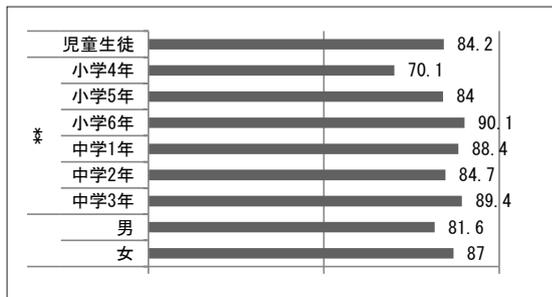


図11 利用目的 (図書館の利用)

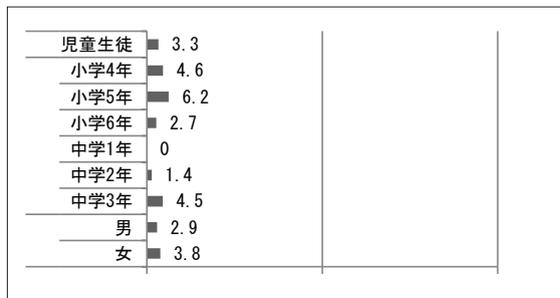


図12 利用目的 (市民サービスコーナーの利用)

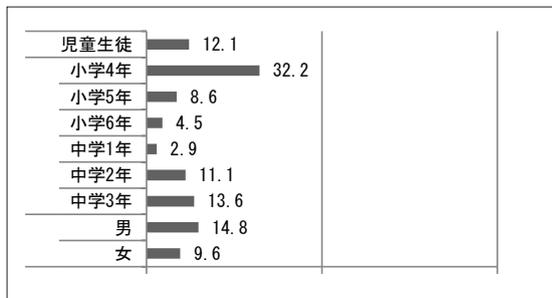


図13 利用目的 (その他)

アカデ美和の利用経験が「ある」と答えた被調査者を対象に利用目的について尋ねた。全体としては、「図書館の利用」(84.2%)が最も多く、大きな差があるが次いで「主催事業への参加」(28.2%)となっており、

主たる利用目的となっている。

学年別にみると、有意差がみられるのが、「主催事業への参加」と「図書館の利用」である。「主催事業への参加」では、学年が上がるにつれ回答が減少し、「図書館の利用」では、5年生を境に10ポイント以上回答が増加している。

「主催事業への参加」は、性別においても有意差があり、男性よりも女性が10ポイント以上多い。この傾向も、地域住民向けアンケートの結果と同様の傾向が見られる。

また、4年生においては、「その他」という回答が多いが、例年美和・足久保・安倍口小学校児童が社会科見学で図書館・生涯学習センターに来館することによるものと推測される。

やはり、地域住民と同様にアカデ美和の利用目的として多いのは「図書館」であり、生涯学習センターの利用として最も多いのが「主催講座への参加」となる点も一致している。生涯学習センターの利用団体の実態として、子どもを構成員に含む団体や、町内会の催し等で施設の利用がある場合でも子どもが主たる参加者であることは少ないため、講座以外で児童・生徒が生涯学習センターを利用することは少ないということが改めて確認できた。

<アカデ美和を利用しない理由>

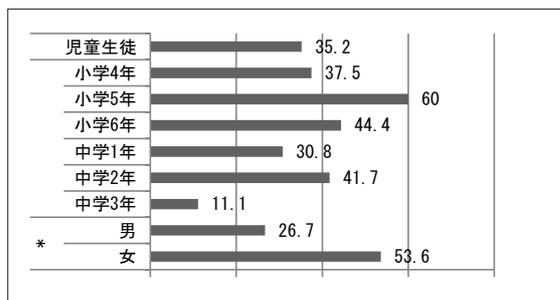


図14 未利用の理由(場所を知らない)

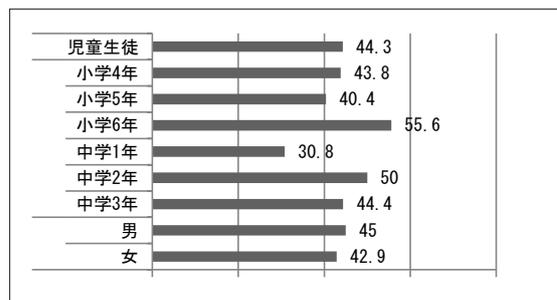


図15 未利用の理由(何をやっているかわからない)

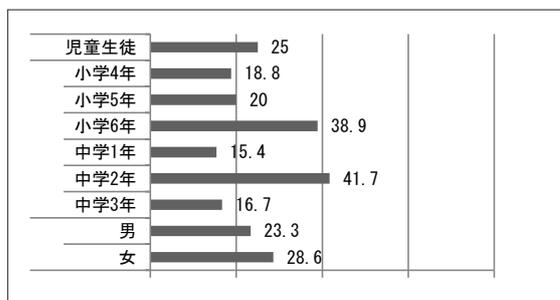


図16 未利用の理由(希望する講座がない)

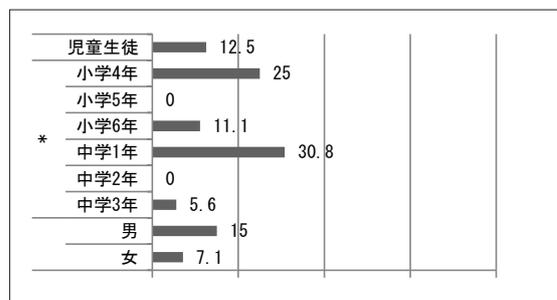


図17 未利用の理由(時間が合わない)

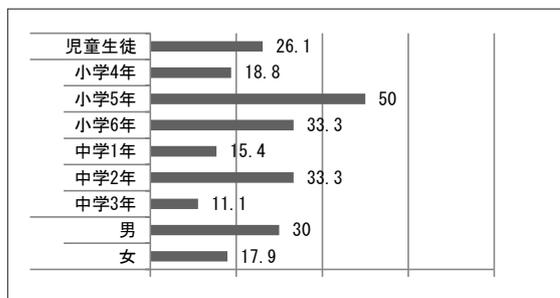


図18 未利用の理由(行きたいと思わない)

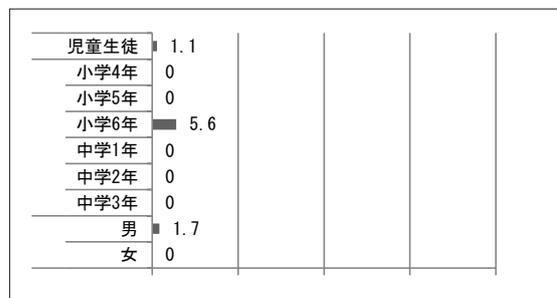


図19 未利用の理由(別の場所を利用)

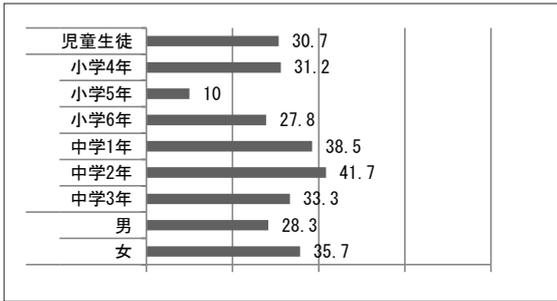


図20 未利用の理由(遠い)

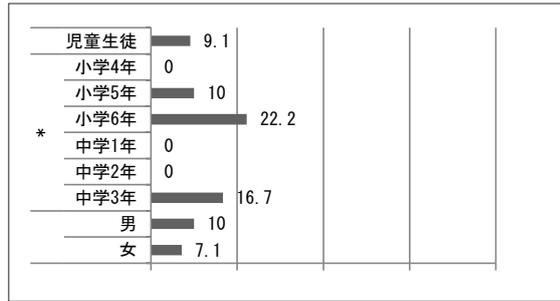


図21 未利用の理由(その他)

アカデ美和の利用経験が「ない」と答えた被調査者を対象に未利用の理由について尋ねた。全体としては、「何をやっているのかわからない」(44.3%)が最も多く、次いで「場所を知らない」(35.2%)、「遠い」(30.7%)といった回答が多い。

<放課後・休日に過ごす場所>

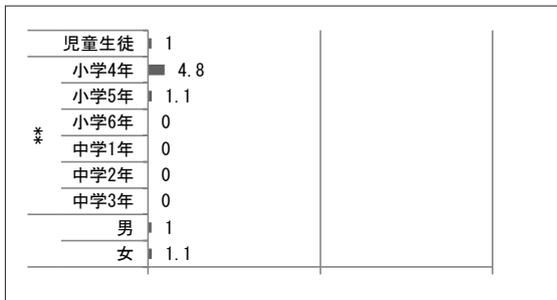


図22 放課後・休日に過ごす場所(生涯学習センター)

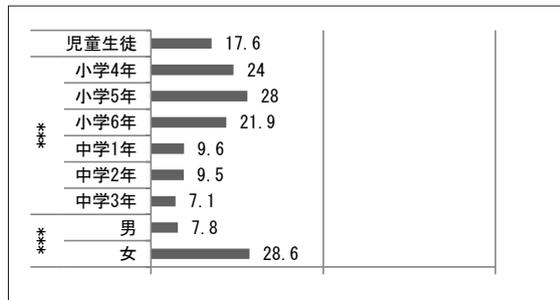


図23 放課後・休日に過ごす場所(図書館)

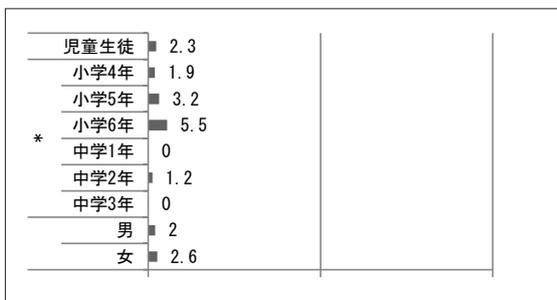


図24 放課後・休日に過ごす場所(地域の集会所)

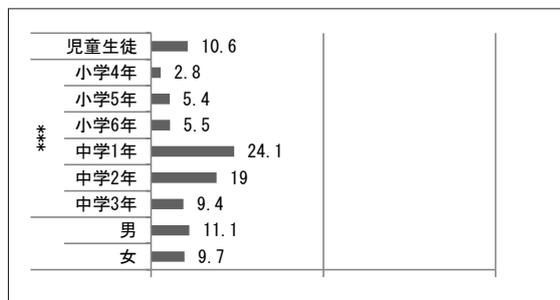


図25 放課後・休日に過ごす場所(小中学校)

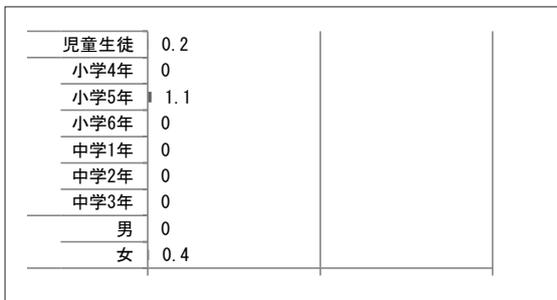


図26 放課後・休日に過ごす場所(大学)

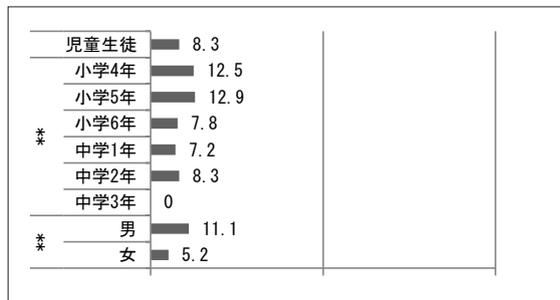


図27 放課後・休日に過ごす場所(運動場)

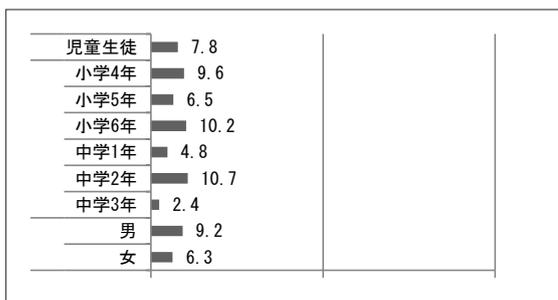


図28 放課後・休日に過ごす場所(体育館)

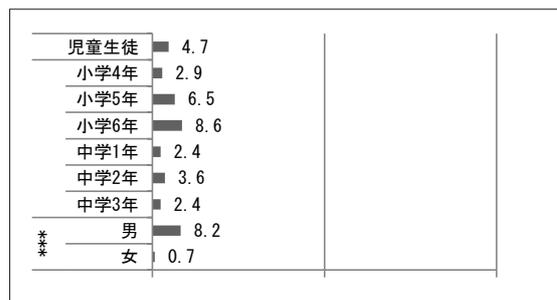


図29 放課後・休日に過ごす場所(河川敷スポーツ広場)

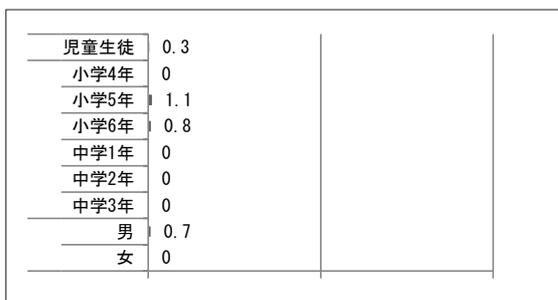


図30 放課後・休日に過ごす場所(老人福祉センター)

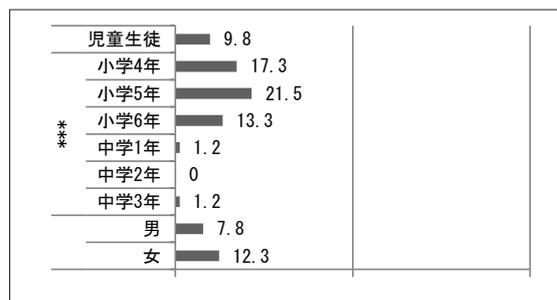


図31 放課後・休日に過ごす場所(安倍ごころ)

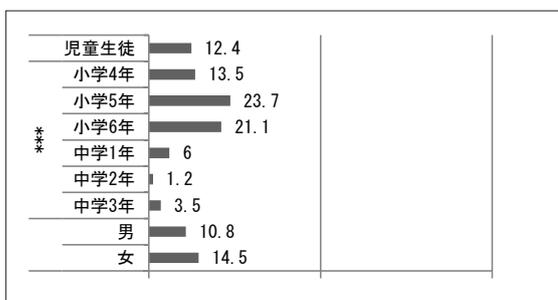


図32 放課後・休日に過ごす場所(児童館)

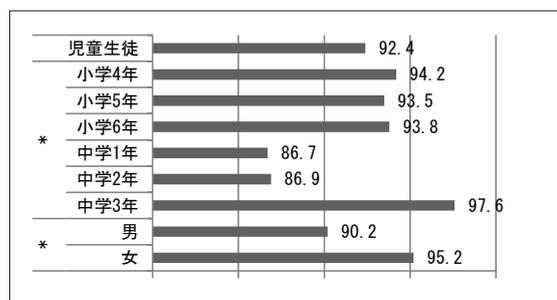


図33 放課後・休日に過ごす場所(自宅・友人の家)

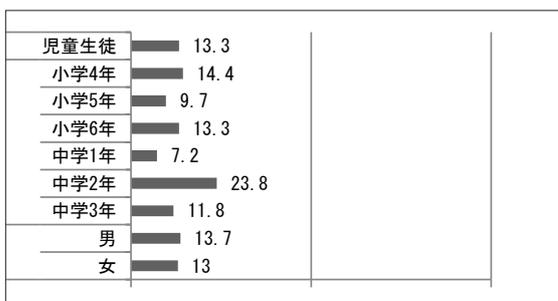


図34 放課後・休日に過ごす場所(その他)

アカデ美和を除いて放課後や休日にどのような場所で過ごすのかについて尋ねた。最も多いのは「自宅・友人の家」(92.4%)であり、次いで「図書館」(17.6%)、「その他」(13.3%)、「児童館」(12.4%)の順となる。「その他」の回答は自由筆記で詳細を求めている。多い回答は、「塾・稽古事」や「買い物」といった内容であった。

学年別でも、最も多いのが「自宅・友人の家」であることにはかわりはないが、多くの項目で有意差がみられる。小学生では「図書館」(小学生平均24.6%)、「児童館」(19.3%)、「安倍ごころ」(同17.4%)といった回答が多く、中学生ではこれらが大きく減る反面、「小中学校」(中学生平均17.4%)が多くなっている。中学1、2年生では「自宅・友人の家」が他学年と比較し10%ポイント減少していることもこの学年の特徴といえる。

性別でも有意差が見られ、女子児童生徒では「図書館」(28.6%)、「自宅・友人の家」(95.2%)、男子児

童生徒では、「運動場」(11.1%)、「河川敷スポーツ広場」(8.2%)と異性と比較し多くなっている。

ここでは、学年が進むによって活動場所が変化することや性別により活動場所が異なることについて改めて確認された。

地域住民向けアンケートで言及したことの繰り返しとなるが、各施設の設置目的、利用方法、立地・アクセスは様々であり、一様に比較することは難しい。しかしながら、地域住民向けアンケートの結果から見えてくる生涯学習センターの主たる利用者が60代以上の層であり、近隣施設である「児童館」や「安倍ごころ」を活動圏に含む層が60代未満の層や小学生の層が多いことを踏まえれば、こうした施設の取り組みを参考にすることや連携を強化することによって、幅広い分野の学習機会を提供することや様々な人との交流機会を促進することができるのではないかと考える。

<興味関心について>

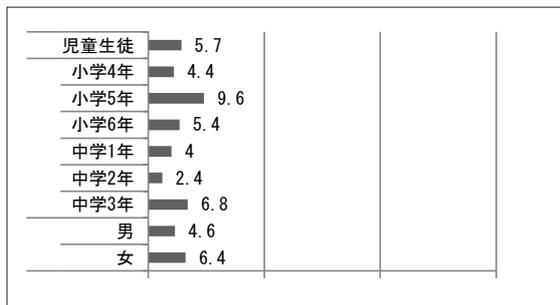


図35 興味関心について(教養の向上)

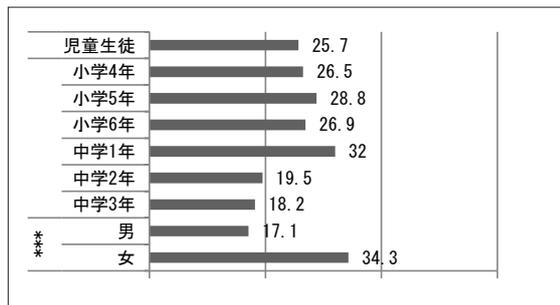


図36 興味関心について(趣味・稽古事)

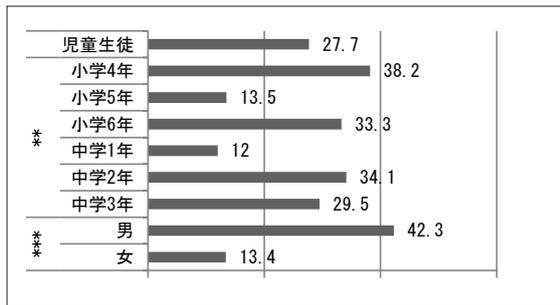


図37 興味関心について(体育・レクリエーション)

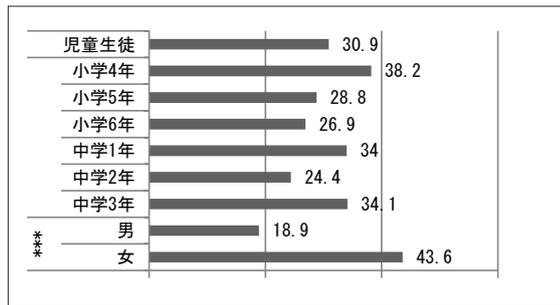


図38 興味関心について(家庭教育・家庭生活)

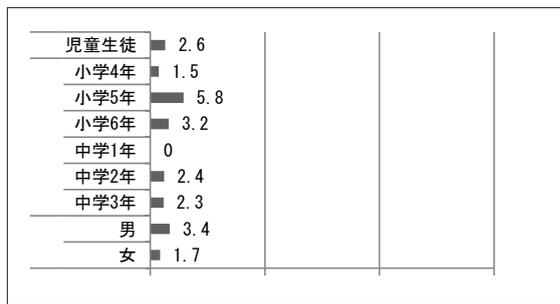


図39 興味関心について(職業知識・技術の向上)

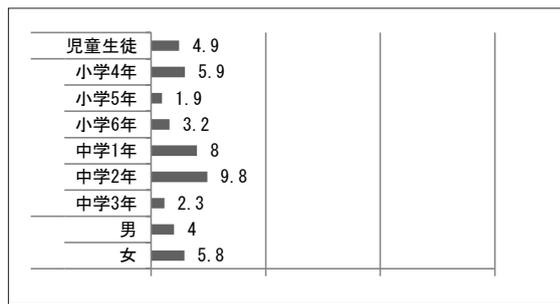


図40 興味関心について(市民意識・社会連携意識)

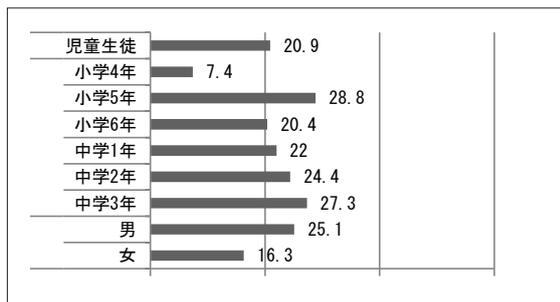


図41 興味関心について(その他)

児童・生徒の好きなこと、興味関心や生涯学習センターでやってみたいことについて尋ねた。この設問は自由回答形式をとり、児童・生徒の回答を平成23年度社会教育調査(実施:文部科学省)の分類に沿って、集計したものである。例えば、「料理」や「お菓子作り」は「家庭教育・家庭生活」、「ピアノ」は「趣味・稽古事」、「サッカー」や「ドッジボール」といった球技は「体育・レクリエーション」に分類した。最も多い回答は、「家庭教育・家庭生活」(30.9%)となっており、次いで「体育・レクリエーション」(27.7%)、「趣味・稽古事」(25.7%)の順となっている。

学年別での有意差はあまりないが、性別では3項目で有意差が見られ、女性は「家庭教育・家庭生活」(43.6%)、「趣味・稽古事」(34.3%)、男性は、「体育・レクリエーション」(42.3%)で、異性に対して15ポイント以上多くなっている。

「その他」(20.9%)の回答も多いが、これは「コンピューターゲーム」に関する「大会」等の回答を分類したためである。しかしながら、「みんなで」「何かをしたい」という意見が多くあったことは示唆的である。

<生涯学習センター事業の認知度について>

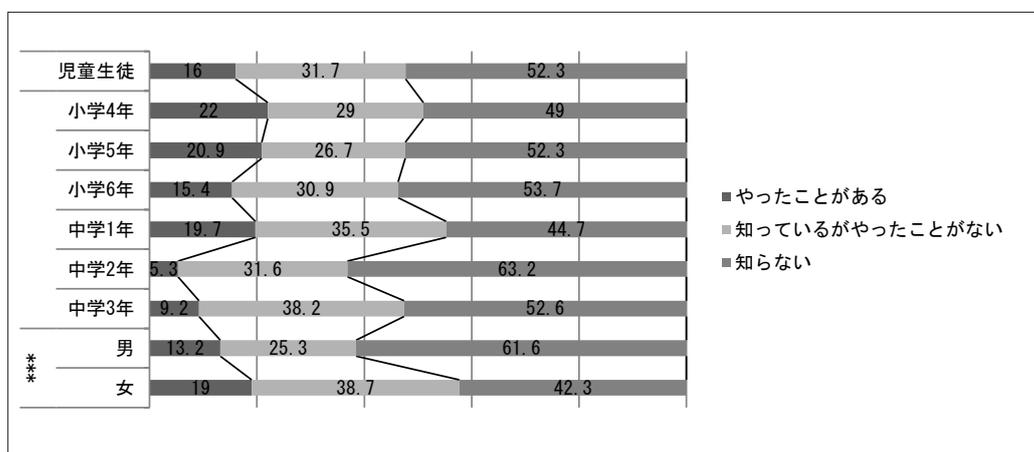


図42 生涯学習センター事業の認知度(講座)

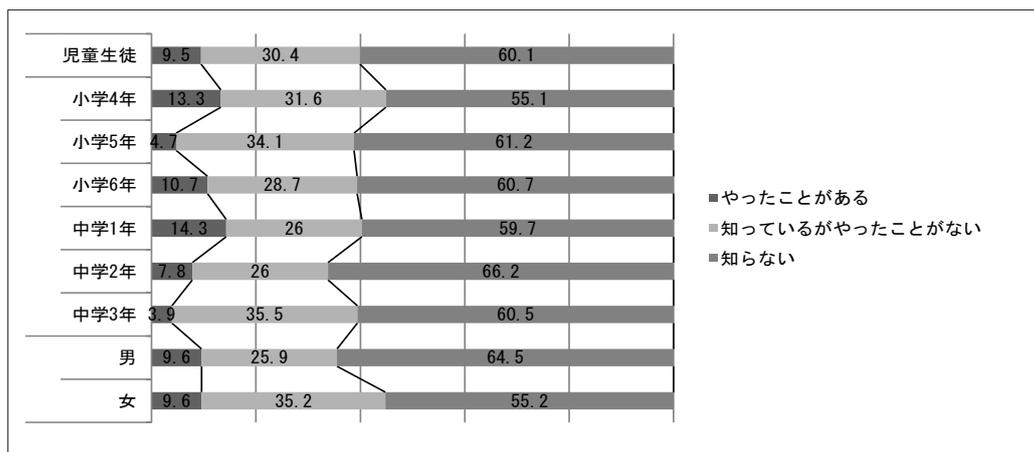


図43 生涯学習センター事業の認知度(サークル活動)

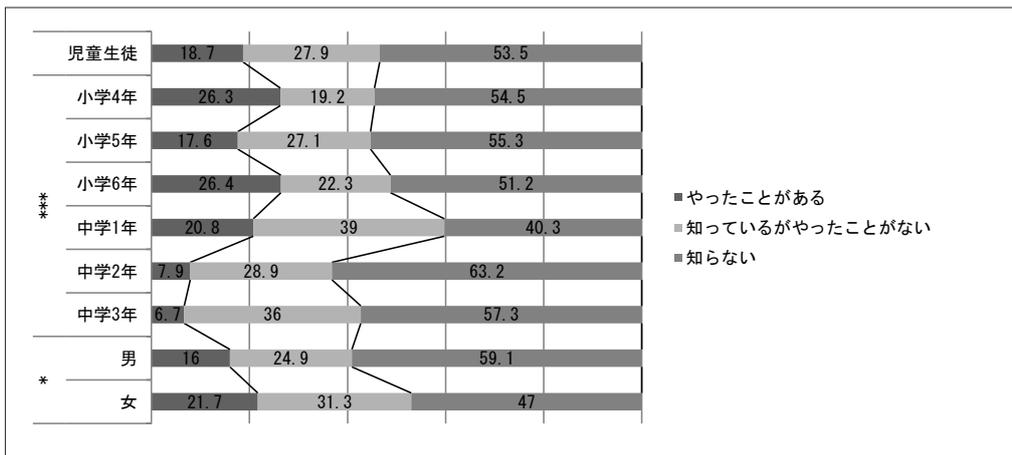


図44 生涯学習センター事業の認知度(交流機会)

生涯学習センターで実施している主催講座の実施、サークル活動、交流機会の創出についての参加歴、認知度を尋ねたところ、どの項目でも「知らない」という回答が50%を超えた。

学年別で唯一有意差があったのが、「交流機会」であった。大きく差があるのは、「やったことがある」との回答で中学1年生以下と中学2年生以上で10ポイント程度以上の差があり、「知らない」との回答では、中学2年生以上と中学1年生以下では、中学2年生以上の方が多くなっている。

性別で有意差があるのは、「講座」と「交流機会」である。どちらも、男性より女性の方が「やったことがある」、「知っているがやったことはない」との項目が多く、生涯学習センターの事業を認知していることが窺える。

地域住民向けアンケートでは、「生涯学習センターのイメージ」を尋ねている。その結果でも、「学びの場」、「交流の場」としてのイメージは高くはなく、児童・生徒の結果と同様の傾向を示している。開館以来、安倍口小学校、安倍口地区社会福祉推進協議会と連携し、児童と地域の高齢者の交流を目的として実施している「地域ふれあい交流会」や美和地域健全育成会、美和中学校と連携し、中学生がサポートボランティアとして参加する「初級パソコン講座」等を実施しており、こうした取り組みが「交流機会」の認知度で学年別の有意差が発生した原因ではないかと推測されるが、いずれにしても多くの児童・生徒にはまだこれらの取り組みが認知されていない。

ここまで見てきたように、多くの項目で地域住民向けアンケートの結果と同様の傾向を児童・生徒向けアンケートでも確認することができた。つまり、複合施設「アカデ美和」は多くの児童・生徒に利用されていることがわかる反面、その主たる利用目的は、図書館の利用である。また、事業の認知度からは、未利用の理由として挙げられた「何をやっているのかわからない」といったことへも繋がっているものと思われる。

この節を終えるにあたり、今年度の静岡市北部生涯学習センター美和分館の取り組みについて言及をする。

表2は静岡市北部生涯学習センター美和分館が平成24年度・25年度における講座を実施した時間帯の回数の平均と今年度の比較である。

		平日			土日			計		
		H24-25 平均	H26	増減	H24-25 平均	H26	増減	H24-25 平均	H26	増減
午前(9時～正午)	実施回数	32	31	△ 1	29	35	6	61	66	5
	比率	29.9%	23.7%	△ 6.2	27.1%	26.7%	△ 0.4	57%	50.4%	△ 6.6
午後(1～5時)	実施回数	27	38	11	5.5	8	2.5	32.5	46	13.5
	比率	25.2%	29.0%	3.8	5.1%	6.1%	1	30.4%	35.1%	4.7
夜間(6時～9時)	実施回数	12.5	14	1.5	1	5	4	13.5	19	5.5
	比率	11.7%	10.7%	△ 1.0	1%	4%	2.9	12.6%	15%	1.9
計	実施回数	71.5	83	12	35.5	48	12.5	107	131	24
	比率	66.8%	63.4%	△ 3.5	33.2%	36.6%	3.5	100%	100%	-

表2 生涯学習センターの主催講座実施時間帯(平成24・25年度平均と平成26年度(予定含む)の比較)

第一に全体の講座回数が増加した。これは、今年度より第2期指定管理が始まり、講座本数による管理から回数の管理へ変更になったことや主催事業の参加者のうち、引き続き学習を続けたいという希望者が立ち上げた団体の育成事業が増加したことが大きな要因である。

第二に土日実施回数・比率の増加である。比率で見ると、土日午前は減少しているが、回数は平日よりも多くなった。これは、今年度から小学2年～6年生を対象とした「アカデ美和子どもカレッジ」を実施したことが要因である。この講座は、日曜午前を中心に、約半年間13回に亘り、金銭教育や防災などの現代的課題をはじめ、茶摘みやひまわりの種まきなどの野外講座や地域住民を講師とした講座となっている。昨年度の地域住民向けアンケート調査で、「北部生涯学習センター美和分館が美和地域の生涯学習活動・文化活動をさらに活性化させていくために力を入れるべき事柄」を尋ねた際に、60代未満の層から「主催講座の内容を充実させること」(42.9%)、「子どもの教育・子育てに関わり、近隣幼・保・小中学校や町内会と連携を深めること」(41.5%)と多くの要望があったこと等を踏まえての取り組みとなっている。15名定員のところ、美和地域内外から20名余りの応募があり、保護者のニーズにも一定程度合致したのではないかと考えられる。

また、今年度実施した小学生～中学生とその保護者を対象としたロボット組み立てとプログラミング講座「キッズ・エンジニア 動くロボット編」には、定員の5倍を超える申込があり、このような分野についての児童生徒やその保護者のニーズに合致したのではないかと考える。この講座では、最終回に「アカデ美和まつり」へ体験ブースを出展し、受講者自身が講師となり、まつりの来場者にプログラミングの指導を行い、祭りの持つ交流的な要素を児童生徒にも主体的に関われるよう工夫をした。こうした児童生徒やその保護者層のニーズに合致する講座を通して、生涯学習センターの取り組みを周知していくことも重要だと考えられる。

先に例で挙げた「地域ふれあい交流会」は、学校の先生方のご指導の賜物か、安倍口小学校児童の参加者数が年々増加し、今年度は過去最高の参加者となった。また、リピーターとして卒業まで何度も参加する児童が増え、この講座に参加した安倍口小学校卒業生が美和中学校生として、「初級パソコン講座」のサポートボランティアに参加する生徒も出てきており、開館5年を経て継続的に実施してきた講座の効果も現れている。

4. 児童生徒調査と地域住民調査の比較から

アンケート調査には児童生徒向けと地域住民向けの2種類があり、対象に合わせた設問になっているが、対応する質問項目もいくつかある。ここでは<アカデ美和の利用経験><利用目的><未利用の理由>を取り上げて、世代別(小学生、中学生、大人の地域住民60代未満、60代以上の4分類)の比較を試みる。

(1) 世代別のクロス集計から

<アカデ美和の利用経験>

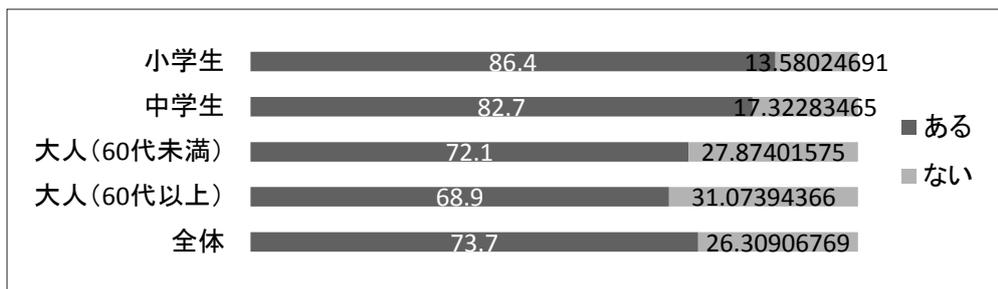


図45 アカデ美和の利用経験(世代別) *** (** 0.1%水準で有意 * 1%水準で有意 * 5%水準で有意。以下同様)

まずアカデ美和利用経験について世代別(4分類)でクロス集計を行った。図にみるように、小学生、中学生、60代未満、60代以上と年代が上がるにつれて「利用経験あり」が下がっており、有意な差がみられる (** 0.1%水準)。通常の公民館・生涯学習センターの場合は、年齢層が高い方が利用経験もあるというイメージがあるが、それとは違った傾向が出ているのは、平成21年度開館で歴史がまだ浅い施設で児童生徒も年配者もスタートが変わりないこと、前節で述べた施設と学校との連携があること等が背景にあると推測されるが、この点を確認するには利用目的などさらなる分析が必要である。

<アカデ美和の利用目的>

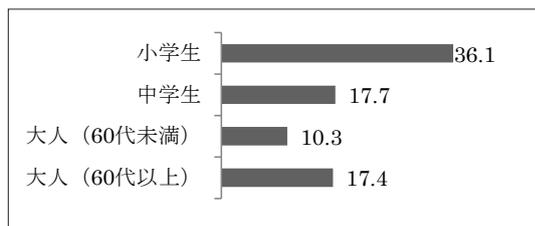


図46 目的:主催事業への参加(世代別) ***

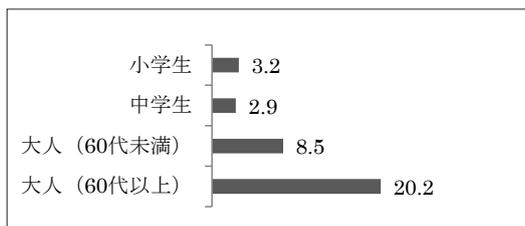


図47 目的:団体・サークルでの利用(世代別) ***

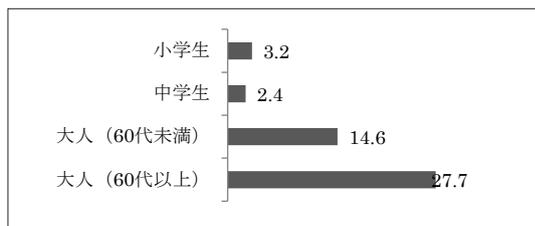


図48 目的:地域活動への参加(世代別) ***

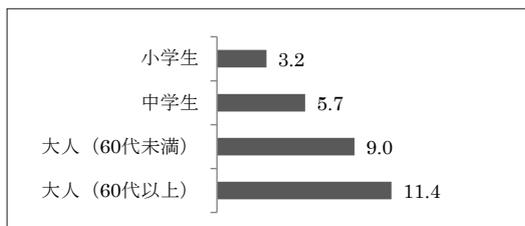


図49 目的:会議・打ち合わせ(世代別) ***

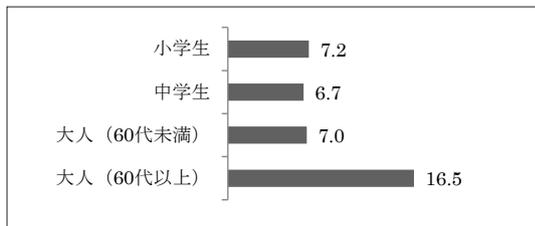


図50 目的:展示鑑賞(世代別) ***

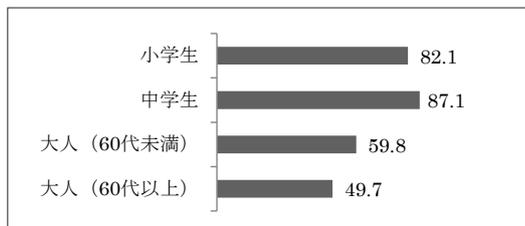


図51 目的:図書館(世代別) ***

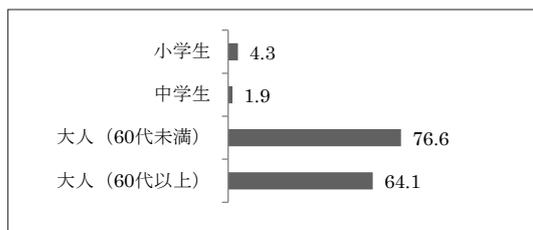


図52 目的:サービスコーナー(世代別)***

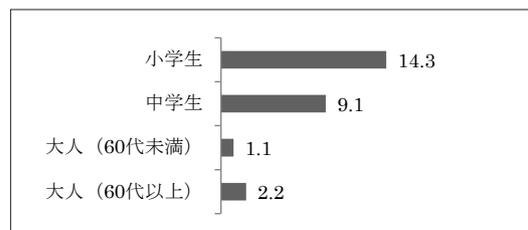


図53 目的:その他(世代別)***

利用目的についても世代別のクロス集計を行った。図が示すように全ての項目で有意差がみられるが、その差の傾向・方向性は様々である。

「団体での利用」「地域活動への参加」「会議・打ち合わせ」(図47～図49)では、小学生・中学生の利用率が低く、大人(特に60代以上)の利用率が高い。行政手続き等の「サービスコーナー」の利用率(図52)ではさらに差が開き、小中学生はほとんどなく圧倒的に大人が多い。この場合は60代以上より60代未満が特に利用率が高いが、これは職業生活や子育て・教育の家庭生活等ライフサイクル上の必要性からくるものと推測される。

これらのデータに対し、反対に子ども(特に小学生)の利用率が高い項目として注目されるのが、「主催事業への参加」(図46)「図書館の利用」(図51)「その他」(図53)である。先にみたように「その他」という回答の中身は、例年美和・足久保・安倍口小学校児童が社会科見学で図書館・生涯学習センターに来館することによるものと推測される。

前節でも確認したように、団体・サークルでの利用、地域活動への参加、会議・打合せ等の目的で児童・生徒が生涯学習センターを利用することは少なかった。やはり、施設による子ども向けの主催事業や学校との連携事業、学校教員による施設利用への働きかけによって、生涯学習センターの利用率は高まる。また、「アカデ美和の利用経験」(図46)のデータは、そうした取り組みに一定の効果があつたことを示しているといえる。

<アカデ美和を利用しない理由>

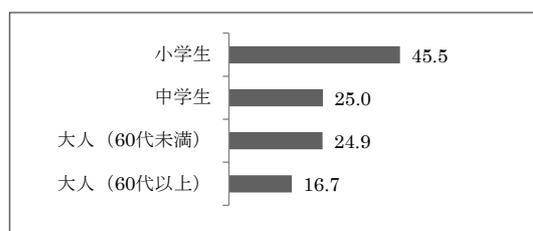


図54 未利用:場所を知らない(世代別)***

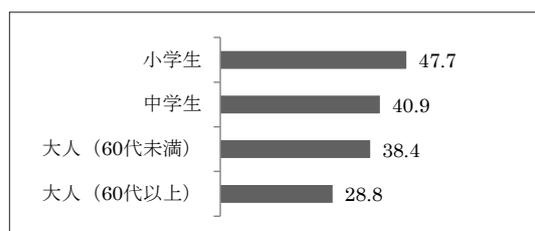


図55 未利用:活動内容がわからない(世代別)*

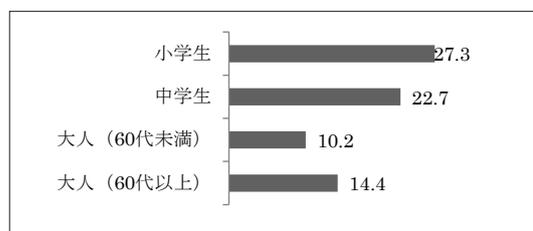


図56 未利用:希望する講座がない(世代別)*

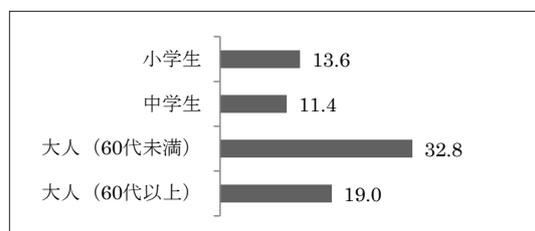


図57 未利用:時間が合わない(世代別)***

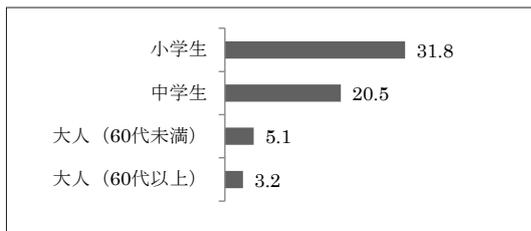


図58 未利用:行きたいと思わない(世代別)***

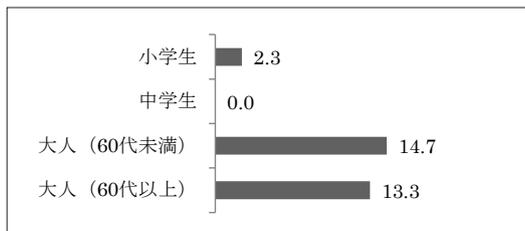


図59 未利用:別の場所を利用(世代別)**

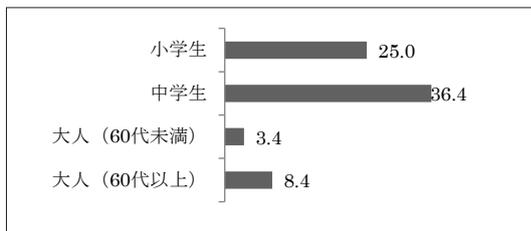


図60 未利用:遠い(世代別)***

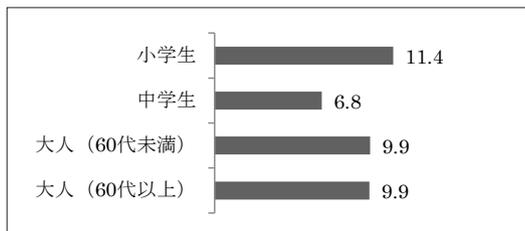


図61 未利用:その他(世代別)***

アカデ美和の利用経験が「ない」と答えた被調査者を対象に未利用の理由について尋ねているが、この設問群についても世代別のクロス集計を行った。

「何をやっているかわからない」(図55)「場所を知らない」(図54)「行きたいと思わない」(図58)の項目については、小学生が最も高率であり、世代が上がるにつれて未利用の理由としてあげる層が減少する。広報を注力すべき対象の一つはやはり若い世代であり、「生涯学習センターデビュー」を目的とした事業やイベントをこれまで以上に開催する必要があると、活動内容(何ができるか、どんな使い方が可能か)も含め小学校・中学校の協力を得ながら進めることが重要である。(ちなみに「別の場所を利用」(図59)しているため未利用と答えた大人は一定数いるが、小中学生はほぼ存在しない)

「時間が合わない」(図57)については、60代未満の大人の回答が突出して多く、仕事や子育てに忙しいライフサイクルが推測される。「希望する講座がない」(図56)については、逆に60代未満の大人の回答が他の世代に対して低く、時間さえ合えば参加してくれる可能性がある。

利用したことがない理由として「遠い」(図60)と答えた層は中学生が圧倒的に多く、小学生がそれに続き、大人による回答はほとんどない。比較的距離がある場所でも自家用車などが利用できる世代(60代未満)ではそれが未利用の理由にならないことも考えられる。「遠さ」については物理的・心理的・交通手段の面など多様な距離感があり、世代だけで見ても十分ではない。次項では、学区別という要素も入れつつ分析を行いたい。

(2) 世代別・学区別の3重クロス集計から

前項での分析を受け、<アカデ美和の利用経験>について世代別×学区別に集計したデータを見ていこう。

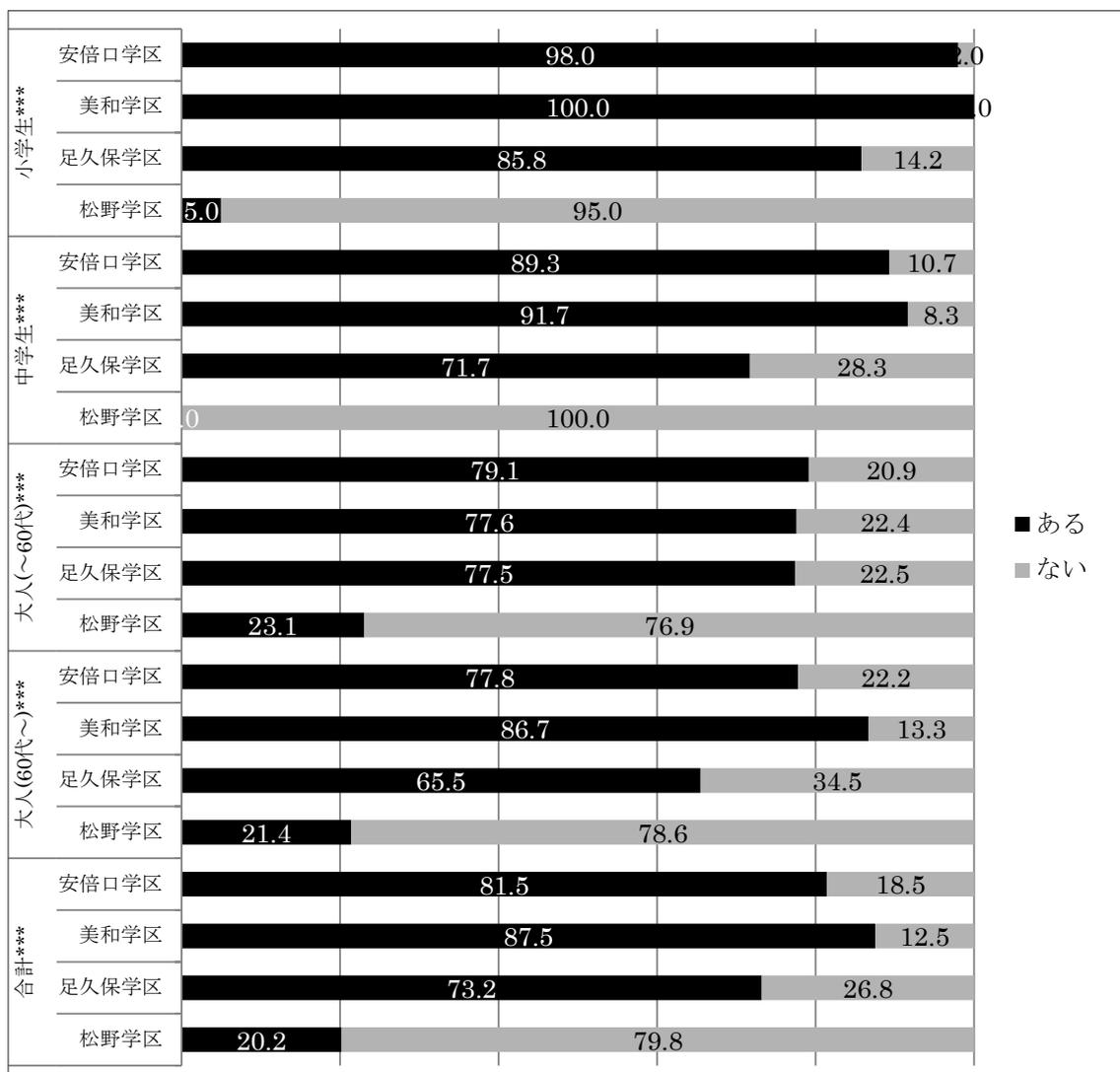


図62 世代別×学区別のアカデ美和の利用経験

図が示すように、世代別のデータも学区によって大きく異なっていることがわかる。全世代を通じて安倍口学区、美和学区の利用経験が高く、足久保学区が続き、遠距離にある松野学区は利用率が低い。小学校については、美和・足久保・安倍口学区では児童が社会科見学で図書館・生涯学習センターに来館することも背景としてあるだろう。

距離がある松野学区についても、大人世代は20%を超える利用経験があるが、小中学生についてはほとんど利用経験がない。先に推測したように、比較的距離がある場所からでも自家用車が利用できる世代ではそれが必ずしも未利用の理由にならない。とはいえ、美和分館が4学区を含む地域全体を対象として生涯学習機会を提供する施設である限り、比較的遠い地域に対してもこれまで以上に前講座や学校ごと施設に招待するような事業を企画・実施する必要があるだろう。

そもそも静岡市の生涯学習センター群のなかで北部生涯学習センター美和分館（アカデ美和）が担っている役割は、生涯学習機会の中央集中を緩和し、地域に密着したきめ細かいサービスを提供することであり、本館の取り組みは静岡市生涯学習センター全体の中でパイロットスタディとしての位置づけも帯びていると考えられる。

6. おわりに

これまで静岡市北部生涯学習センター美和分館による「アカデ美和と地域をつなぐアンケート」（児童生徒向け）のデータをもとに分析・考察を進めてきた。2回にわたった調査結果の分析を経てなお残された課題は多く、特に開館間もない施設がアンケート結果を反映した取り組みをするなかで、今後施設と住民・利用者とのような関係を築いていくかは、継続的な調査を待つしかない。また、同種の他生涯学習センターとの比較調査を行うことによって新たな知見が得られるだろう。

前稿冒頭に述べたように、北部生涯学習センター美和分館が設置されているアカデ美和は、静岡市葵区美和地区(旧 美和村)に属する4学区の住民より「地域の世帯数・人口が増加するなか、それに対応した社会資本の整備や住民サービスは著しく立ち遅れている」という課題意識のもとに出された「旧美和村地区のコミュニティ推進の拠点となる学習・行政サービス・福祉等複合施設」を、という要望を受けて建設された。

それゆえ、アカデ美和が期待されているのは、生涯学習・社会教育の領域での機会均等および地域間格差の是正でもあり、小さな施設ではあるが大きな役割をも担っていると考えられる。

前稿でも述べたことであるが、今回の調査は、静岡市北部生涯学習センター美和分館が、複合施設の建設がなり学習機会・コミュニティ推進に関するハード面の充実を遂げたあとも、ソフト面の充実を目指して取り組んだ意欲的な事業である。地域課題解決支援プロジェクトの一環として、その取り組みに大学が関わり、両者の協力・連携のなかで地域課題の解決の方向性を見出すきっかけになるならば、静岡大学としても光栄である。

最後に、静岡市北部生涯学習センター美和分館の担当地域の関係者の方々、学校関係者、調査に協力いただいた住民、児童・生徒の皆さんにあらためて謝意を表したい。

注

- (1) 阿部耕也、小澤拓真「生涯学習施設と地域をつなぐために（I）～静岡市北部生涯学習センター美和分館の利用状況と意識調査から～」(『生涯学習教育研究』第16号、静岡大学イノベーション社会連携推進機構・地域連携生涯学習部門、3-26頁。2014年3月)
- (2) 阿部耕也、望月雄司「公民館・生涯学習センターの利用実態とイメージ：静岡市葵生涯学習センター・アンケートを手がかりに」(『生涯学習教育研究』第13号、静岡大学生涯学習教育研究センター、3-12頁。2011年3月)
- (3) 平成25年度、静岡大学が立ち上げた「地域課題解決支援プロジェクト」は、地域社会から幅広く地域課題を公募し、地域と大学の連携による課題解決モデル事業を選定して大学として支援するものである。モデル事業以外にも、主な応募課題については地域に赴きヒアリングを行い、地域課題のデータベースを作成の上、学内外の研究室等に紹介し、課題解決を支援している。プロジェクトの概要、応募課題リスト、進捗状況については以下のWebサイトを参照。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/areastudies_index.php)

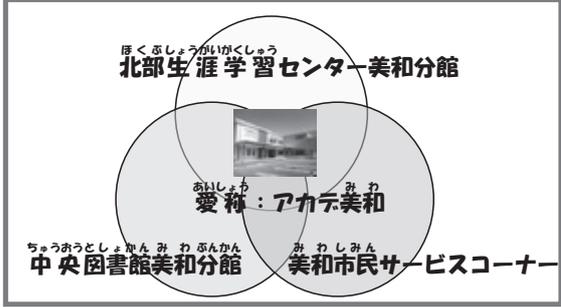
平成25年度 静岡市北部生涯学習センター美和分館
アカデ美和と地域をつなぐアンケート
～北部生涯学習センター美和分館の利用状況及び意識に関する調査～

ごあいさつ

こんにちは。アカデ美和にある北部生涯学習センター美和分館です。このアンケートは、来年9月に開館5周年を迎えるにあたり、北部生涯学習センター美和分館とアカデ美和をより多くの人に使ってもらえるよう、参考にするためのアンケートです。ご協力をお願いします。



「アカデ美和」は、北部生涯学習センター美和分館、中央図書館美和分館、美和市民サービスコーナーが一緒になった複合施設で平成25年9月に開館しました。「アカデ美和」という愛称は、大勢の市民の方が考えた案の中から選ばれたものです。



問1. あなたの学年に○をつけてください。 N=583

- ①小学4年生 104
- ②小学5年生 93
- ③小学6年生 130
- ④中学1年生 83
- ⑤中学2年生 85
- ⑥中学3年生 85

問2. あなたの性別に○をつけてください。 無回答 3

- ①男 53.4%
 - ②女 46.6%
- (以下、単位は%)

問3. あなたの住んでいる小学校区に○をつけてください。

- ①安倍口小学区 35.6
- ②美和小学区 16.8
- ③足久保小学区 43.9
- ④松野小学区 3.6

問4. あなたが一緒に住んでいる家族を教えてください。あてはまる数字すべてに○をつけてください。

- ①父親・母親 97.8
- ②兄弟姉妹 84.7
- ③祖父母 37.0
- ④その他 3.6

問5. あなたは放課後や休日どのような場所で過ごしていますか。アカデ美和以外であてはまる数字すべてに○をつけてください。

- ①市内の生涯学習センター・交流館(旧公民館) 1.0
- ②図書館 17.6
- ③町内の集会所 2.2
- ④小・中・高等学校 10.5
- ⑤大学 0.2
- ⑥運動場 8.3
- ⑦体育館 7.8
- ⑧河川敷スポーツ広場(安倍川沿いの広場) 4.7
- ⑨鯨ヶ池老人福祉センター 0.3
- ⑩安倍ごころ 9.8
- ⑪美和児童館 12.4
- ⑫自宅・友達の家 92.4
- ⑬その他 13.3

問6. アカデ美和は、静岡市北部生涯学習センター美和分館(以下、生涯学習センター)、静岡市立中央図書館美和分館、美和市民サービスコーナーが一緒になった複合施設です。

アカデ美和へ行ったことはありますか。どちらかに○をつけてください。

- ①ある(→問7へ) 84.8
- ②ない(→問8へ) 15.2

裏面へ続きます。

問7. アカデ美和へは、どのような理由で行きましたか。あてはまるもの数字すべてに○をつけてください。

- ① 生涯学習センターが行っている講座 28.2
(子ども厨房、フラワーアレンジメント、ふれあい交流会、セミのぬげがら博士、わくわく劇場、アカデ美和まつり など)
- ② 自分が入っているサークルや団体の活動(ダンス、歌、クラブ活動の集まり など) 3.1
- ③ 町内会・地域団体等が行う地域活動への参加(子ども会やPTA活動 など) 2.9
- ④ ①～③以外の人の集まり・集会 4.3
- ⑤ 絵や写真などの作品展示を見るため 7.0
- ⑥ 図書館に行くため(勉強、本を読みほかに) 84.2
- ⑦ 市民サービスコーナーに行くため(お父さん・お母さんなどと一緒に証明書をもらいに) 3.3
- ⑧ その他 12.1

問8. アカデ美和へ行かないのはどのような理由ですか。あてはまるもの数字すべてに○をつけてください。

- ① アカデ美和の場所を知らない 35.2
- ② 何をやっているところかわからない 44.3
- ③ 参加してみたい講座がない 25.0
- ④ 行きたい時間にやっていない 12.5
- ⑤ アカデ美和へ行きたいと思わない(理由:) 26.1
- ⑥ アカデ美和以外の施設を利用している(地域の集会所、児童館など) 1.1
- ⑦ 遠い 30.7
- ⑧ その他 9.1

問9. あなたが興味を持っていること(好きなことや、生涯学習センターでやってみたいこと)を自由に書いてください。

教養の向上 5.7 趣味・稽古事 25.7 体育・レクリエーション 27.7
(家庭教育・家庭生活 30.9 職業知識・技術の向上 2.6 市民意識・社会連帯意識 4.9)
その他 20.9

問10. 以下の中で、生涯学習センターがやっていることを知っていますか。また、やった(行った)ことがありますか。あてはまるところに○をつけてください。

	やったことがある。	知っているが、やったことはない。	知らない。
例) サッカーを知っていますか。	○		
① いろいろな講座(料理・工作など)をやっている。	16.0	31.7	52.3
② いろいろなサークル(団体)が活動している。 (歌・おどり・体操・俳句・絵画 など)	9.5	30.4	60.1
③ いろいろな人と交流する機会を作っている。	18.7	27.9	53.5

問11. その他、自由に意見などをかいてください。

(生涯学習センターへの評価 6.0 生涯学習センターへの意見 19.3
図書館に関する内容 41.0 その他 36.1)

ご協力ありがとうございました!

平成25年度 北部生涯学習センター美和分館 アカデ美和と地域をつなぐアンケート ～北部生涯学習センター美和分館の利用状況及び意識に関する調査～

ご挨拶

こんにちは。静岡市北部生涯学習センター美和分館（愛称：アカデ美和）です。平成21年9月に開館し、地域の皆様のご協力をいただき、早いもので来年度には5周年を迎えます。

このアンケートは、北部生涯学習センター美和分館が今後の施設運営・事業企画等の参考にするため、地域の皆様の声をより広くお聞きすることを目的として、近隣自治会・町内会様、静岡大学イノベーション社会連携推進機構様のご協力のもとに実施するものです。地域の皆様とともに当館がさらに発展できますよう、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

アンケートのご提出について

ご記入いただいたアンケートは所属される町内会長様へ9月30日（月）までにご提出ください。

アンケートの結果について

アンケートの結果については、平成26年3月までに地域の皆様にお知らせさせていただく予定です。また、このアンケート結果は、当館の施設運営・事業企画等の参考資料、静岡大学における研究の資料としてのみ用い、他の目的に使用することはありません。



静岡市北部生涯学習センター美和分館 (アカデ美和)

指定管理者（公財）静岡市文化振興財団

〒421-2113 静岡市葵区安倍口団地5番1号

TEL：054（296）7122 FAX：054（296）7124

静岡市生涯学習センターホームページ <http://sgc.shizuokacity.jp/>

記入例
 例1. あなたの年代に○をお付けください。
 ①19歳以下 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上
 例2. あなたの好きな果物に○をお付けください。
 ① ぶどう ② キウイ ③ みかん ④ その他(りんご)

問1.あなたの年代に○をお付けください。 N=1815
 ①19歳以下5 ②20代7 ③30代109 ④40代210 ⑤50代309 ⑥60代以上1159 無回答 16

問2.あなたの性別に○をお付けください。
 ①男性38.5% ②女性61.5% (以下、単位は%)

問3.あなたのご職業に○をお付けください。
 ①勤め人(自営業・パート含む) ②専業主(夫)婦 ③学生 ④無職 ⑤その他
 45.4 22.4 0.6 26.1 5.5

問4.あなたのご家庭の家族構成に○をお付けください。
 ①単身世帯 13.1 ②夫婦世帯31.1 ③親子世帯41.9 ④三世帯世帯12.2 ⑤その他 1.7

問5.あなたのお住まいの学区に○をお付けください。
 ①安倍口学区 ②美和学区 ③足久保学区 ④松野学区 ⑤その他
 43.7 11.3 34.8 10.0 0.2

問6.アカデ美和は平成21年9月に開館した北部生涯学習センター美和分館(以下、美和分館)、中央図書館美和分館(以下、図書館)、美和市民サービスコーナー(以下、市民サービスコーナー)からなる複合施設です。当該施設をご利用になったことはありますか。いづれかに○を付け各設問にお答えください。

① ある 70.1	② ない 29.9
問6-2A 利用目的に○をお付けください。 (複数回答可)	問6-2B ご利用のない理由に○をお付けください。 (複数回答可)
① 生涯学習センター主催事業等への参加 14.7	① 施設・場所を知らない 19.5
② ご自身が加入する団体(サークル)での参加 15.9	② 何が行われているのかわからない 32.1
③ 町内会・地域団体等が行う地域活動への参加 22.9	③ 参加してみたい講座がない 13.0
④ その他の会議・打合せ 10.5	④ 時間が合わない 23.7
⑤ 展示の鑑賞 13.0	⑤ 利用することに抵抗がある 3.8
⑥ 図書館の利用(図書の貸出、勉強での利用等) 53.4	⑥ 他の施設を利用している 13.7
⑦ 市民サービスコーナーの利用(住民票等の発行) 68.7	⑦ 遠い 6.7
⑧ その他() 1.8	⑧ その他() 9.9

問7.美和分館の管理・運営に対する満足度についてあてはまるものに○をお付けください。(図書館、市民サービスコーナーを除く)

①満足 ②やや満足 ③やや不満 ④不満 ⑤知らない・行ったことがない
 14.5 15.6 3.2 0.7 66.0

問7-2. 問7で選ばれた選択肢の理由をご記入ください。(ただし、⑤は除く)
 有効パーセントではなく、パーセントで処理しています
 (講座に関すること 1.4 施設に関すること 3.3 運営に関すること 4.8
 図書館に関すること 1.5 市民サービスコーナーに関すること 1.5 その他 3.3)

問8.これまでに学校教育以外で学びの場・地域づくりの場としてご利用になったことのある施設すべてに○をお付けください。(アカデ美和を除く)

- ①市内生涯学習センター・交流館(旧公民館) 25.7 ②図書館 57.1 ③町内の集会所 51.6 ④小・中・高等学校 23.6
 ⑤大学 4.2 ⑥運動場 28.2 ⑦体育館 35.5 ⑧河川敷スポーツ広場 23.6 ⑨鯨ヶ池老人福祉センター 12.3
 ⑩安倍ごころ 39.4 ⑪美和児童館 23.4 ⑫その他 3.9

問9.美和分館(アカデ美和の内、図書館・市民サービスコーナーを除く)をどのような施設だと思えますか。あてはまる数字に○をお付けください。

(①そう思う ②まあまあそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない)

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| A) 誰もがいつでも利用できる施設 | ① 54.5 ② 29.5 ③ 14.3 ④ 0.9 |
| B) 公共性の高い施設 | ① 47.3 ② 37.5 ③ 14.1 ④ 1.2 |
| C) 地域社会の中心となる施設 | ① 31.0 ② 40.3 ③ 25.6 ④ 3.0 |
| D) 安心、安全な施設 | ① 46.2 ② 42.7 ③ 10.0 ④ 1.1 |
| E) 地域の防災拠点としての施設 | ① 23.9 ② 39.5 ③ 32.5 ④ 4.1 |
| F) 地域のまちづくりに役立つ施設 | ① 32.7 ② 45.7 ③ 19.5 ④ 2.1 |
| G) 地域課題等の解決法を考えることができる施設 | ① 17.1 ② 36.5 ③ 41.2 ④ 5.1 |
| H) 地域の集会所 | ① 34.2 ② 42.3 ③ 19.8 ④ 3.7 |
| I) 様々な人と交流することができる施設 | ① 32.6 ② 43.9 ③ 21.2 ④ 2.4 |
| J) お年寄りの憩いの場 | ① 21.1 ② 36.6 ③ 35.8 ④ 6.4 |
| K) 青少年・子どもの居場所 | ① 13.4 ② 32.7 ③ 45.8 ④ 8.1 |
| L) 様々な学習の場を提供してくれる施設 | ① 26.8 ② 46.0 ③ 23.8 ④ 3.3 |
| M) 学習に関する相談にのってくれる施設 | ① 11.4 ② 30.1 ③ 50.1 ④ 3.3 |
| N) 知識・経験・技能を他者へ伝えることができる施設 | ① 14.9 ② 39.5 ③ 39.7 ④ 5.9 |
| O) 上記以外でありましたら、ご自由にご記入ください | 3.4 |

問10. 今、ご自身が興味のある数字すべてに○をお付けください。(複数回答可)

- | | |
|---------------|---|
| A) 異文化理解 | ①語学 18.4 ②交流 20.4 ③旅行 46.5 ④その他 0.8 |
| B) 家庭 | ①子育て 17.8 ②介護 44.6 ③家庭問題 12.3 ④その他 1.0 |
| C) 環境 | ①自然 41.7 ②エネルギー 22.0 ③リサイクル 29.7 ④その他 0.9 |
| D) 健康・精神衛生 | ①運動 48.0 ②食 44.9 ③心 28.8 ④その他 0.7 |
| E) 情報活用 | ①パソコン 44.8 ②共有・発信 13.1 ③整理・分析・加工 8.9 ④その他 1.3 |
| F) 消費者問題 | ①お金・財産 23.4 ②身体・健康 50.8 ③相談 10.0 ④その他 1.0 |
| G) 人権問題 | ①ハラスメント 7.0 ②地域 18.3 ③健康 40.9 ④その他 0.9 |
| H) 男女共同参画 | ①育児 14.3 ②家庭 24.8 ③意識 22.4 ④その他 1.0 |
| I) 子どもの豊かな人間性 | ①仲間づくり 34.3 ②道徳 40.4 ③教育 24.9 ④その他 0.7 |
| J) 地域づくり | ①ボランティア 26.1 ②町内会・地域団体 29.6 ③地産地消 24.9 ④その他 1.0 |
| K) 趣味・教養 | ①芸術 38.0 ②歴史 32.6 ③科学 14.0 ④その他 3.2 |
| L) その他 | 2.0 |

問11. 今後、生涯学習センターを利用する場合にご都合の良い時間帯**すべてに**○をつけてください。

	月	火	水	木	金	土	日
午前(9時～正午)	28.7	26.3	27.4	25.9	26.4	35.9	37.6
午後(1時～5時)	26.3	26.8	26.9	26.0	26.0	36.6	36.2
夜間(6時～9時)	23.0	24.1	24.5	24.7	25.5	26.0	22.3

問12. 美和分館が実施する講座の情報源として**利用したいものすべてに**○をお付けください。

- ①広報しずおか「しずおか気分」70.4 ②当センターに設置するチラシ29.3 ③店舗・公共施設 8.6
 ④町内・学校で配布するチラシ37.3 ⑤ホームページ18.0 ⑥メールマガジン2.5 ⑦ツイッター0.9
 ⑧フェイスブック等 SNS2.0 ⑨友人・知人 9.7 ⑩テレビ 8.6 ⑪ラジオ3.8 ⑫ない(①～⑪に該当しない) 3.8
 ⑬入手するつもりがない 5.0 ⑭その他 1.5

問13. 美和地域の生涯学習活動・文化活動をさらに活性化させていくために、美和分館はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまるもの**すべてに**○をお付けください。

以下、有効パーセントではなく、パーセントで処理しています

- ① 講座に関する情報を得やすくすること 39.3
 ② 生涯学習活動・文化活動を行う団体に関する情報を得やすくすること 22.4
 ③ 主催講座の内容を充実させること 28.0
 ④ 市政に関する講座を充実させること 11.1
 ⑤ 生涯学習活動・文化活動を行う団体との連携・協働した事業・講座を増やすこと 15.6
 ⑥ 市内の公共施設(教育施設・文化施設等)との連携した事業・講座を増やすこと 18.0
 ⑦ これまでの知識・経験を他者へ伝えることができる機会を増やすこと 13.0
 ⑧ 学習成果等を発表する機会を増やすこと 5.5
 ⑨ 子どもの教育・子育てに関わり、近隣幼・保・小中学校や町内会・地域団体等との連携や協力を深めていくこと 23.6
 ⑩ 生涯学習センター職員の能力・資質の向上を図ること 12.3
 ⑪ 生涯学習活動・文化活動を支援する地域の人材(指導者・コーディネーター)を育成すること 13.7
 ⑫ 地域のまちづくりに対して積極的な役割を果たすこと 23.7
 ⑬ 町内会・地域団体等が実施する活動に対して積極的に関わっていくこと 22.6
 ⑭ 地域課題等の解決法を考える機会を設置すること 10.4
 ⑮ その他() 1.1

問14. その他・ご意見ご要望、また具体的に実施してほしい講座等ございましたらご記入ください。

- (講座に関すること 2.7 施設に関すること 0.6 運営に関すること 2.3
 (図書館に関すること 0.7 市民サーブすコーナーに関すること 0.2 その他 1.9)

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。